

## 第1－2期の活動計画

重点分野1：大学拡充計画の推進						
<p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【基本方針:6】 新学部や附属病院の進展を検討</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療・福祉の総合大学化の完成</li> <li>2. 大学の発展と更なる進歩を目指す</li> <li>3. 附属病院の健全運営の取組と新たな分野への発展の取組</li> <li>4. 新学科等増設に伴う施設整備計画の検討及び実行</li> <li>5. 計画的な施設整備による安全安心の環境確保</li> </ol>						
<p>責任者:鈴木秀幸(法人事務局長)</p> <p>分担者:山口えり子(企画広報課長)、辻井悦生(管財課長)、向井正治(医療福祉事業管理室)、濱口直樹(桜の森病院事務長)</p> <p>事務局:企画広報課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画1.	—					→
中期計画2.	—					→
中期計画3.	—					→
中期計画4.	—					→
中期計画5.	—					→
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 医療・福祉の総合大学化の完成	<p>①医療・福祉の総合大学として、学部、学科、専攻の更なる充実を図り、社会のニーズに適応した学部学科等の新設、再編について検討、推進する。</p> <p>◆他の医療系大学の学部、学科組織の動向、社会のニーズ等を継続的にウオッチし、適応した学部、学科等の新設、再編に即時対応できるよう体制を整える</p> <p>また、増設で分かり難くなった現在の学部・学科編成を高校生目線で分かりやすいように改組することを検討する。</p> <p>②2023年4月開設を目指し、現在の保健衛生学部医療栄養学科管理栄養学専攻、臨床検査学専攻を改組し、保健衛生学部医療栄養学科、保健衛生学部臨床検査学科の学科組織として改編、文部科学省等への申請を進める。(2022年4月事前相談、7月学科設置届出書提出、9月受理予定)</p>					
2. 大学の発展と更なる進歩を目指す	<p>①医療・福祉以外の分野の学部創設の可能性について検討する。</p> <p>医療福祉の総合大学として、大学がさらに発展していくように健康を切り口に、医療・福祉以外の分野の学部設立の可能性を検討する。</p>					

<p>3. 附属病院の健全運営の取組と新たな分野への発展の取組</p>	<p>①桜の森病院の ISO9001 認証の継続 ◆2022 年 9 月 ISO 維持審査を受審する。</p> <p>②三重県内主要病院との関係強化 ◆三重県内主要病院の地域連携室へのソーシャルワーカー定期訪問(半期に 1 回)による情報発信・情報収集に努め関係強化を図る。</p> <p>③日本緩和医療学会認定研修施設の認定について、8 月申請、10 月取得を目指す。</p> <p>④外部研修会の実施 ◆一般市民を対象に緩和ケアにまつわる情報提供を行うため市民公開講座を開催する。(9 月または 10 月を予定) ◆連携医療機関医師等に対する緩和ケア病棟入院料施設基準に準拠した研修を年度内に実施する。</p> <p>⑤学部の管理栄養士、理学療法士、臨床心理士、臨床工学技士、鍼灸師等、医療資格者等との連携により、患者への医療サービスの充実を図る。</p> <p>⑥訪問看護ステーションの事業規模拡大の検討</p> <p>⑦新たな分野への発展の具体方策の検討</p> <p>⑧国・県の地域医療構想推進支援策の研究</p>
<p>4. 新学科等増設に伴う施設整備計画の検討及び実行</p>	<p>① 新学科増設に伴う必要スペース及び施設改修検討 ◆既存スペースでの導入検討 (2022 年度実施) 白子：2 号館改修による学科導入 ◆新增築での導入検討 (2021 年度～2023 年度検討) 千代崎：テニスコートへの新增築検討</p>
<p>5. 計画的な施設整備による安全安心の環境確保</p>	<p>①中期施設整備計画からの老朽化施設整備 ◆安全性、重要性、緊急性を考慮した老朽化施設の効率的な施設整備の実施 (2022 年度実施の外壁、防水、物設備の改修) 千代崎：屋上防水外壁改修 (1 件)、トイレ改修 (1 件) 白子：トイレ改修 (2 件) (2023 年度以降は中長期整備計画により順次実施)</p> <p>②法令改正等への遵守 (耐震、防災等) ◆施設内における二次部材 (特定天井) 耐震対策の検討 (2027 年度実施に向けた検討) 白子：講堂天井検討 ◆現行法令に乗ったエレベーターの計画的更改 (2022 年度、2023 年度) 千代崎：エレベーター更改 (2 基) ◆更なるバリアフリー化の検討 (2022 年度実施) 千代崎：身障者駐車場整備 (2023 年度以降実施に向けた検討) 白子：講堂段差バリアフリー化 ◆BCP を考慮した防災施設の検討 (2023 年度以降構築に向けた検討) 千代崎：災害対策室設置検討</p> <p>③地球環境を考慮した施策整備の実施 ◆照明 (LED 化)、高効率空調設備への更改によるエネルギー削減 (2022 年度実施) 千代崎：管理棟及び廊下 LED 化 (2 件)、空調更改 (3 件) 白子：空調更改 (1 件)</p>

	<p>(2023 年度以降 LED 化及び空調更改は中長期整備計画により順次実施)</p> <p>④魅力的な学習環境の構築</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ICT を考慮した講義室の整備</li></ul> <p>(2022 年度実施)</p> <p>千代崎：講義室整備 (2 室)</p> <p>(2023 年度以降)</p> <p>千代崎 A 講義棟講義室順次整備を実施</p>
--	--

## 第 1 - 2 期の活動計画

重点分野 2 : 大学広報の強化と入学者受け入れの改善						
<p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【基本方針:6】 新学部や附属病院の進展を検討</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信</li> <li>2. 本学の強みや特色・教育・研究・社会貢献についてのパブリシティを高めるため、報道機関との連携強化</li> <li>3. 学生募集体制の強化と選抜制度の見直し（全学部・全学科の定員充足）</li> <li>4. ディプロマを明確にした広報活動の展開</li> <li>5. 高大接続を意識した社会貢献活動の推進</li> </ol>						
<p>責任者: 森下芳孝（学生・社会貢献担当副学長）            分担者: 小山尚樹（入学課長）、山口えり子（企画広報課長）            事務局: 入学課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—					→
中期計画 2.	—					→
中期計画 3.	—					→
中期計画 4.	—					→
中期計画 5.	—					→
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 広報活動の強化および 大学ブランド力を向上させる 情報発信	<p>①広報内容について、各組織（学部学科）や部署との相互連携を図り情報収集と共有を行う。</p> <p>②大学の取り組み、教育や研究の成果、社会貢献活動などの内容を適切な媒体へ積極的に発信する。</p> <p>(1) 大学ホームページの充実化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学ホームページの管理運営、見直し改善</li> <li>・ 新着情報発信への迅速な対応</li> <li>・ What's new の情報更新（随時）</li> </ul> <p>(2) 公式 SNS の運用を強化する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNS の特性を活かしたコンテンツの検討と実施 （SNS 投稿目標値：前年度比+10%以上）</li> <li>・ 友だち登録やフォローの促進方法の検討</li> </ul> <p>(3) 紙媒体、動画、交通広告、新聞、メディア広告などを利用した情報発信をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「SUMS News」の発行（年 4 回発行）</li> <li>・ 交通広告の利用               <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 駅看板のデザインリニューアル（2022 年 4 月掲出）</li> </ul> </li> <li>・ 新聞やメディア広告の有効的な利用</li> <li>・ 大学紹介動画への内容追加の検討、見直し（2022 年 11 月）</li> </ul>					

	<p>③大学ポートレートへの継続参画を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の教育情報に関する情報公開の充実を図る</li> <li>◆一斉更新（2022年7月）、以降新情報を随時更新</li> </ul>
2. 本学の強みや特色・教育・研究・社会貢献についてのパブリシティを高めるため、報道機関との連携強化	<p>①パブリシティ機会の獲得に有効な情報発信に注力し、新聞・テレビ・ラジオなどマスメディアを利用したプレスリリースやプレス向けイベントなど広報活動を積極的に行う。 （プレスリリース目標値：前年度比+10%以上）</p> <p>②マスコミとの信頼関係を構築し、ネットワークを広げる。</p>
3. 学生募集体制の強化と選抜制度の見直し（全学部・全学科の定員充足）	<p>①2022年度入試において定員が未充足である学科（専攻）への広報活動の比重を高くする。特に薬学部の定員確保に向けた広報を強化する。</p> <p>②早期により優秀な学生の確保を実現するため、総合型選抜及び、学校推薦型選抜の改善を進める。特に学校推薦型選抜における指定校枠の拡大と同枠への取り込み強化を行う。</p> <p>③現状分析により、大学入学共通テストを利用する選抜方式の内容（利用方法・回数・選抜時期等）を見直す。</p> <p>④双方向の受験情報提供（一方的な発信ではなく、対話・相談型）を推進（既に、本学公式FAQにて2021年5月より実験運用開始）</p> <p>・鈴鹿市との学官連携協定に基づいた看護師育成奨学金制度の効果的な運用に向けた連携強化により早期から意欲のある学生の入学を確保し、市内医療機関への看護師人材の確保、定着に貢献する。（3, 4年生を対象に毎年5名学長推薦にて選出）</p>
4. ディプロマを明確にした広報活動の展開	<p>①ディプロマから想定される各学科が入学前に求める具体的能力（高校での履修内容・レベル）を明確化する（アドミッションポリシーをより明瞭にし、入学後の学力不足の解消を目指す）。</p> <p>②卒業後の進路・資格をこれまで以上にアピールし医療・健康・福祉系大学としての、強みを全面に出した広報を展開する。一部学部（薬学部）では、仕事紹介PVの制作を検討中である。</p>
5. 高大接続を意識した社会貢献活動の推進	<p>①高大連携協定校との定期的な協議を行うと同時に、県内高校とのこれまで以上の連携強化を進める。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、各高校内で導入が増えている「学問探求活動」「キャリア教育」への医療系大学としてサポートを積極的に行い、本学の教育内容への理解を促進する。</p> <p>③本学において県内高校生を対象とした2つの全県イベント（科学オリンピック・みえ探求フォーラム）の開催・後援を進めることにより、意識の高い高校生（高校教員）の本学に対する認知度・理解度を深める。</p>

## 第1 - 2期の活動計画

重点分野3：教育内容の充実						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 修業年限内に全員卒業、国家試験や資格試験の全員合格に向けた「SUMS 方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の樹立及び遂行とその検証</li> <li>2. 数理・データサイエンス（統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能）など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用力を備えた人材を育成するカリキュラムの全学的編成とそれらを展開する教育体制の確立</li> <li>3. 学修者の能動的な修学を支えるための学修支援システムの更なる拡充及び学修成果の可視化による学修者自身の自学自習や就職活動に有用な仕組みの構築</li> <li>4. 医療人底力教育と多職種連携教育の拡充・発展のための全学的な視点に立つ学科・施設横断型カリキュラムの再構築とその実践</li> </ol>						
<p>責任者:片山直之（教務・教育改革担当副学長）            分担者:福田八寿絵（底力教育センター長）、田口博明（FD 推進委員長）、松永ひとみ（教務課長）            事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	SUMS 方式学修支援方法の樹立		SUMS 方式学修支援方法の遂行とその検証			
中期計画 2.	数理・データサイエンスに関する人材育成カリキュラムを全学的に編成		数理・データサイエンスに関する人材育成カリキュラムを展開する教育体制の確立			
中期計画 3.	学修支援システムの拡充と学修成果の可視化		学修者自身が自学自習や就職活動に学修支援システムを役立てる仕組みの構築			
中期計画 4.	新設学科及び大学附属桜の森病院を加えた横断的カリキュラムの作成		新教育システムの再構築とその実践			
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 修業年限内に全員卒業、国家試験や資格試験の全員合格に向けた「SUMS 方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の樹立及び遂行とその検証	<p>教育改革委員会、教育質保証委員会、教務委員会、FD 推進委員会の連携による学修者本位の教育の改善と各学科の教育の質向上を図る「SUMS 方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の遂行</p> <p>① 本学教育の基本的方向性と具体的施策の立案とその実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆教育改革委員会に加えて各学科及び全学共通分野の教育質保証委員会と連携し、学生の学力を担保しつつ、留年・休学・退学する学生を最大限に少なくする「SUMS 方式学修支援方法（トコトンできるまで教育）」の遂行に努める。</li> <li>◆教務委員会は、教育改革委員会の意向を具体化し、各学科との調整を図りながら、その実行に努める。</li> </ul> <p>② FD 推進委員会による教員意識の改革と授業改善の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆教員のコロナ禍及びコロナ禍後の新しい生活様式においても対応可能な ICT (Information and Communication Technology) を活用した双方向型授業を含めた教育形態を推進する能力の向上を図るために、年2回以上の FD 研修会・講習会を開催する。</li> </ul>					

	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学生による授業評価を教育改善に役立てるために、学生参加型のFD推進委員会を年1回以上開催する。</li> <li>◆本学FD活動を他の大学・短大等にも広報し、連携を図ることによって、授業改善の相乗効果を生み出すための教育・教務に関わる講演会を少なくとも年1回以上開催する。</li> </ul> <p>③ 学習支援システムの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆学科の専門性に合わせた基礎学力養成教育を意識したリメディアル教育を管理する組織を医療人底力教育センター内に設置し、その運営を図る。</li> <li>◆遠隔会議システム Zoom または動画などを利用した反転授業用教材を事前学習や事後学習に役立てるために、各学科あるいは全学共通分野において1科目以上での教材の作成とそれらの授業への導入に努める。</li> <li>◆学修支援システムを用いた自学自習・演習の活用例を、learning Box などを用いて作成し、各学科あるいは全学共通分野において1科目以上での導入に努める。</li> <li>◆FD推進委員会の下部組織として設置されたLMS (Learning Management System) 研究部会では、授業改善への取り組みとして、教員のためのマニュアルの作成および授業改善の成功の具体的例示等を学修支援システムの活用にあつめる。</li> </ul>
<p>2. 数理・データサイエンス(統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能)など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を備えた人材を育成するカリキュラムの全学的編成とそれらを展開する教育体制の確立</p>	<p>数理・データサイエンス教育の始動に向けての教育体制の整備</p> <p>① 数理・データサイエンス教育の全学的な体制作り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆全学的な標準カリキュラムの設置を検討し、「数理・データサイエンス(統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能)」など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を育成する科目の全学部での開講に努める。</li> <li>◆数理・データサイエンス・AIと社会とのつながりについて教えることができる教員の養成を目的としたFD講演会を年1回実施する。</li> <li>◆Society5.0を視野に入れ、学生一人ひとりの興味や関心を引き出すための多様な学びの場を目的とし、数理・データサイエンス教育の向上に向けた自学自習・演習の仕組みを継続して構築する。</li> </ul>
<p>3. 学修者の能動的な修学を支えるための学修支援システムの更なる拡充及び学修成果の可視化による学修者自身の自学自習や就職活動に有用な仕組みの構築</p>	<p>学修者本位の教育として、学生が「学修」する者としての責任と覚悟に気付き、能動的に学習できる体制を構築</p> <p>① 学修支援システムの拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆eラーニングを含めた学修支援システムを最大限に利用した自学自習・演習などを各学科独自あるいは全学共通分野の授業への普及に努める。</li> <li>◆教員が、SUMS-POを活用して学生の学修成果を共有できる仕組みの活用にあつめる。</li> </ul> <p>② IR推進室による分析データの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆各学科・専攻のIR担当教員が抽出した成績不振学生などのデータに基づいて、各学科・専攻の教育質保証委員会は教育改善及び指導体制について方針を立て、それらの実施にあつめる。特に、1年生早期のデータを参考に個別指導が必要な学生を抽出し、当該学生への継続的な支援を行うことができる方策を構築する。</li> <li>◆学生の学修時間の状況調査や意識調査の集計結果に関する情報を本学ホームページにて公表し、それらを活用できる体制の構築を図る。</li> </ul> <p>③ 学修者本位の教育として、一人ひとりの学生が「何を学び、何を身に付けたのか」を評価検証する教育質保証を実践するための学生本人による学修ポートフォリオなど可視化された学修成果の確認と、その活用の考案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆下記の学修支援を組み合わせて活用する方法の活用を図る。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学修ポートフォリオの充実による学生自身の成長の確認</li> <li>・ルーブリックの活用による評価尺度の標準化と可視化</li> <li>・カリキュラムマップを活用し、ディプロマ・ポリシーの到達に向けた確認</li> <li>・ディプロマサプレメントの交付による卒業時の学修成果の客観的な可視化</li> <li>◆学生自身がディプロマ・ポリシーにどれくらい近づけたかを確認できることが、学修成果の可視化の目的であり、確認したデータに基づいて学生自身が入学後の自身の成長を知り、その後の学修計画に活用できる仕組みの活用を図る。</li> <li>◆教育目標について、卒業時に学生による学習到達度の自己評価を調査し、その結果を本学ホームページに公表し、大学として教育成果を確認し、教育改善に繋げる仕組みの活用を図る。</li> <li>④ 卒業後アンケート調査結果等とそれらの活用</li> <li>◆卒業生の就職先等の進路先による調査を施行し、調査内容及び調査結果について公表するとともに、調査結果等を教育改善に反映させる体制の構築を企画する。</li> </ul>
<p>4. 医療人底力教育と多職種連携教育の拡充・発展のための全学的な視点に立つ学科・施設横断型のカリキュラムの再構築とその実践</p>	<p>入学前教育、初年次教育、専門教育の連携の強化により、専門教育の土台となる知識・技能・態度を総合的に涵養する教育体制の整備</p> <p>① 医療人底力教育の再構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆総合的な授業編成が特徴である医療人底力教育は、特に1年生の「医療人底力実践」を全学必修科目とし、学科横断型の思考方法を身につけさせることを目指している。また、医療・福祉系総合大学である本学の特色を活かし、多様性のあるカリキュラムを4年間一貫教育として実施している。2022年度設置される新設学科(救急救命学科)や2021年開設された大学附属桜の森病院との協力体制を図る統合的カリキュラムを企画し、その遂行に努める。</li> <li>◆実社会の課題解決に生かせる能力を養うため、底力教育に数理・データサイエンスの要素も組み入れ、専門分野横断的なSTEAM教育の実施に努める。</li> </ul> <p>② 高いレベルの学力と総合力を培うための教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆上級生向け実践的応用編である「多職種連携教育」を充実させ、大学附属桜の森病院と連携し、社会の求める高いレベルの医療人教育の実施を図る(緩和ケア実習検討部会の開催など)。</li> <li>◆現在実施中の事例と実践で学ぶ多職種連携教育を各学科・専攻の専門性を生かせるような内容へと進化させ、全学科の学生が履修可能な体制を整備することで、医療人としての総合力を養う一貫教育の実施を図る。</li> <li>◆新設学科や桜の森病院との連携を含め、本学独自の魅力ある教育改善策の遂行を図る。</li> </ul> <p>③ 資格試験を意識した入学前教育、初年次教育、専門教育システムの連携協力体制の再構築とその実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆新入生プレイスメントテストの見直しを行い、基礎学力の不足する学生を一層早期に発見・抽出し、各学科と連携したケアと各学科の専門教育充実につながる初年次リメディアル教育の実施を図る。</li> </ul>

## 第1－2期の活動計画

重点分野4：学生支援の強化						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国家試験の標準修業年限内合格率100%を目指し、きめ細かい指導方法の確立と実施。</li> <li>2. 就職率100%を目指し、医療機関に加え就職先として民間企業への就職支援の充実。</li> <li>3. 学生アンケート調査結果も踏まえ学生支援体制を強化し、面倒見の良い大学を実践する。</li> <li>4. 学友会やクラブ活動・ボランティア活動を支援し、チームワークや自主性を育てる</li> </ol>						
<p>責任者：森下芳孝（学生・社会貢献担当副学長）            分担者：岩崎泰正（健康管理センター長）、大井一弥（国家試験対策委員会副委員長）            綾野真理（学生相談室室長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、勝田能成（学生課長）、            田中宏治（白子学生・就職課長）            事務局：学生課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画1.						→
中期計画2.						→
中期計画3.						→
中期計画4.						→
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 国家試験の標準修業年限内合格率100%を目指し、きめ細かい指導方法の確立と実施	<p>①本学の教育理念である「知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリストの育成」を実践し、教育体制構築に向けて取り組む。目標達成に必要な行動計画の企画立案と施策実施をする。</p> <p>◆計画の進捗状況については各担当教職員で構成される国家試験対策委員会で課題共有や有益な施策共有など進捗状況を把握し課題解決に取り組む。</p>					
2. 就職率100%を目指し、医療機関に加え就職先として民間企業への就職支援の充実	<p>①卒業後の進学・就職支援体制構築に向けて就職希望者に対しての就職率100%を目標とする。</p> <p>目標達成に必要な行動計画の企画立案と支援体制を整え、各学科・専攻の就職担当教員と情報を共有しつつ相互によるサポートを実施していく。</p> <p>◆就職支援の取り組みとして、学科単位で開催する年間就職ガイダンスに加え、進路就職相談の個別対応については対面方式の対応とWEBによる遠隔オンライン方式を活用して対応していく。</p> <p>②薬学部5年次生を対象とした学内合同企業説明会の実施            病院・薬局・製薬メーカー・官公庁など幅広い業界の法人様に参加いただき、オンライン等を活用して情報発信を行う。</p> <p>③薬学部1～6年次生を対象とした学内個別企業説明会の実施            薬剤師が活躍できる業界を知り、目指す薬剤師に対する意識向上に繋げることを目標とし、オンライン等を活用して企業研究の場とする。</p>					

	<p>④看護学部1～3年次生を対象としたマナー講座の実施 低学年からマナーに対する意識付けをし、実習において実践することで、医療人としてのマナーを身に付ける。</p> <p>⑤看護学部3年生を対象とした三重県厚生農業協同組合連合会の病院説明会の実施。 就職ガイダンスの一環として、病院研究を目的としJA 三重厚生連に所属する病院の看護部長及び卒業生による病院説明会を実施する。三重県の病院への就職率を向上させる。</p>
<p>3. 学生アンケート調査結果も踏まえ学生支援体制を強化し、面倒見の良い大学を実践する</p>	<p><b>【学生課】</b></p> <p>①学生から汲み上げた意見・要望を実際の学生支援に反映させていく。 ・学生の満足度を経年で比較・評価できる指標を用いて、学生満足度調査を実施する。 ・在学生アンケートを実施する。(意見・要望の集約) ・卒業生アンケートを実施する。 ・学友会組織との意見交換会を実施する。 ・学長と学生との意見交換会を実施する。</p> <p>②福利厚生施設、学内環境の充実 ・あいさつ運動及び、通学路における交通指導の実施 ・学生食堂・売店との意見交換会を実施する。 ・障がい学生に対応した学内環境を整備する。</p> <p><b>【健康管理センター】</b></p> <p>③健康診断を円滑に実施し、学生の健康状態のスクリーニングを行い、所見のある学生には保健指導や再検査の実施及び、必要な際には医療機関を紹介し、健やかに大学生活が送れるよう支援を行う。</p> <p>④全学部生を対象にUPI(精神的健康度調査)を実施し、こころに問題を抱えていると思われる学生の早期発見及び、学生相談室と連携して面談を行う等、精神的な面へのサポートを行う。</p> <p>⑤メンタルヘルス上の悩みや問題を抱えている学生に対して、学生相談室の予約等、迅速な判断と対応を行う。</p> <p>⑥感染症の予防及び、修学に必要な抗体検査(麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎、B型肝炎、C型肝炎)を円滑に実施する。</p> <p>⑦抗体検査の結果、基準値を満たさない学生には、学外実習における感染のリスクを予防するため、ワクチン接種の勧告を行う。</p> <p>⑧新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、必要な学生に対して抗原検査を実施する。</p> <p><b>【健康管理センター・白子保健室】</b></p> <p>⑨各々の施設が管轄する学生に対し、病気やケガなど健康上の問題点への迅速な対応、ならびに適切な処置を行う。</p> <p><b>【学生相談室】</b></p> <p>⑩学生相談体制の向上(前年度の分析結果をもとに行う) ・前年度に引き続き、学生の多様なニーズに対応するため、従来の対面方式による相談だけでなく、それ以外の方法(メール、電話、Zoom等による遠隔の相談)を活用し、相談活動を行う。 ・教職員と連携しつつ、メンタル不調を来している学生の早期発見、早期対応に努める。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員を対象に学生指導に役立つ情報の発信を行うと共に、メンタル面に問題を抱える学生への早期介入を行い、留年、不本意な休学・退学に陥る学生の減少を目指し、教職員との連携強化を図る。</li> </ul> <p><b>【医療栄養学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学生への栄養及び、食生活指導による健康管理への介入</li> <li>・健康診断の結果から栄養不良（低栄養及び過栄養等）の状態に該当する学生への栄養相談及び、指導体制の充実</li> <li>・上記に該当する学生への継続的な栄養相談及び指導体制の充実</li> </ul>
<p>4. 学友会やクラブ活動・ボランティア活動を支援し、チームワークや自主性を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学友会、クラブ・サークル活動を支援する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学友会組織の継続的支援を行う。</li> <li>・クラブ・サークル活動の継続的支援を行う。</li> <li>・課外活動時の感染症対策等をルール化し、参加者が安心して取り組めるよう支援を行う。</li> </ul> </li> <li>②SUMS ポイント制度の周知及び、取得促進に向けた取り組みを実施する。</li> <li>③学生のボランティア活動への積極的参加を促す取り組みを実施する。</li> <li>④学生・教職員が積極的に社会貢献・地域貢献活動へ参加できるよう支援する。</li> </ul>

## 第 1 - 2 期の活動計画

重点分野 5 : 教職員の育成と人材確保																		
<p>【基本方針:4】 教職員の資質向上</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. SD 研修会の実施や各種外部研修会の参加により、事務職員全体および大学執行部の教員の大学運営に必要な能力の向上を図る仕組みづくりを構築する。</li> <li>2. 教職員評価において、教職員個々が業務遂行のための目標設定を行い、その目標を達成させるための仕組みづくりを検討する。</li> <li>3. 他の大学等と協同で、FD/SD 研修会を定期的に開催する。</li> </ol>																		
<p>責任者: 豊田学長 分担者: 鈴木秀幸 (法人事務局長)、村田尚久 (大学事務局長)、矢田智樹 (人事・厚生課長) 事務局: 人事・厚生課</p>																		
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度												
中期計画 1.	→					→												
中期計画 2.	→					→												
中期計画 3.	→					→												
2022 年度活動計画																		
対応する中期計画項目	活動計画内容																	
<p>1. SD 研修会の実施や各種外部研修会の参加により、事務職員全体および大学執行部の教員の大学運営に必要な能力の向上を図る仕組みづくりを構築する。</p>	<p>SD 推進に係る基本方針及び年次計画を策定し、教職員の資質向上に必要な研修を計画的に実施する。</p> <p>1. SD 推進に係る基本方針 建学の精神と教育の理念に基づき、その使命・目的を達成するため、適切かつ効率的な大学運営を図るために必要な知識・スキルを身に付け、能力及び資質を向上させるための研修等を実施し、職員一人ひとりを育成する。</p> <p>2. 年次計画 (1) 本学または連携大学が主催する研修</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">研修項目</th> <th style="width: 30%;">受講計画者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①コンプライアンス等のテーマ別 SD 研修会 (年 4 回)</td> <td style="text-align: center;">200 名/1 回</td> </tr> <tr> <td>②連携大学との共同 FD/SD 研修会 (年 2 回)</td> <td style="text-align: center;">60 名/1 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 本学以外の機関または団体が主催する研修等への派遣</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">研修項目</th> <th style="width: 30%;">延べ受講計画者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①階層別などにより体系的に実施される外部機関または団体主催による集合研修</td> <td style="text-align: center;">20 名</td> </tr> <tr> <td>②業務内容や職種に応じた必要な専門知識を習得するためのセミナー、講演会、研修などの実務研修</td> <td style="text-align: center;">100 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) OJT の継続実施 経験豊富な職場の上司や先輩が、職場での実践を通じて若手職員や後輩を計画的に指導・教育、自己啓発の勧奨に取り組み、業務知識等を習得させ育成する。</p>						研修項目	受講計画者数	①コンプライアンス等のテーマ別 SD 研修会 (年 4 回)	200 名/1 回	②連携大学との共同 FD/SD 研修会 (年 2 回)	60 名/1 回	研修項目	延べ受講計画者数	①階層別などにより体系的に実施される外部機関または団体主催による集合研修	20 名	②業務内容や職種に応じた必要な専門知識を習得するためのセミナー、講演会、研修などの実務研修	100 名
研修項目	受講計画者数																	
①コンプライアンス等のテーマ別 SD 研修会 (年 4 回)	200 名/1 回																	
②連携大学との共同 FD/SD 研修会 (年 2 回)	60 名/1 回																	
研修項目	延べ受講計画者数																	
①階層別などにより体系的に実施される外部機関または団体主催による集合研修	20 名																	
②業務内容や職種に応じた必要な専門知識を習得するためのセミナー、講演会、研修などの実務研修	100 名																	

<p>2. 教職員評価において、教職員個々が業務遂行のための目標設定を行い、その目標を達成させるための仕組みづくりを検討する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員評価について、現在の評価方法の内容・方針について検証し、改善を提案、実行し、その結果を検証する。</li> <li>・事務職員の人事考課について、現在の評価方法について検証し、改善を提案する。</li> </ul>
<p>3. 他の大学等と協同で、FD/SD 研修会を定期的開催する</p>	<p>私学連携協議会やコンソーシアムにおいて開催される研修会に積極的に参加する。 また、他大学との連携、情報共有を図ることにより、各機関で開催される研修会に教職員を参加させる。</p>

## 第1－2期の活動計画

重点分野6：研究活動の活性化を通じた社会貢献						
<p><b>【基本方針:3】</b>            本学の特色を生かした研究を通じての社会貢献</p> <p><b>【中期計画】2021年度-2026年度</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西洋医学と東洋医学の知識と技術（代替医療）を融合した統合医療研究を推進するための研究活動への資源配分</li> <li>2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備</li> <li>3. 学内研究の推進と研究指導者の育成</li> <li>4. 研究活動推進のための外部資金の獲得</li> <li>5. 研究倫理の確立と厳正な運用</li> <li>6. 産学官連携研究活動の推進</li> </ol>						
<p>責任者:鈴木宏治（大学院・研究担当副学長、社会連携研究センター長）            分担者:太田伸生（医療科学研究科長）、飯田靖彦（薬学研究科長）、長谷川誠仁（大学院課長）、            真弓 昭（研究振興課長）            事務局:大学院課、研究振興課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	—					▶
中期計画 2.	—					▶
中期計画 3.	—					▶
中期計画 4.	—					▶
中期計画 5.	—					▶
中期計画 6.	—					▶
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 西洋医学と東洋医学の知識と技術（代替医療）を融合した統合医療研究を推進するための研究活動への資源配分	<p>①SUMS 学科横断的共同研究の推進【研実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆学部・学科横断的な共同研究への研究費助成を行う。</li> <li>◆採択された研究課題はホームページに掲載する。</li> <li>◆学部・学科横断的共同研究支援事業の問題点を改善し、内容の充実を図る。</li> </ul>					
2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備	<p>①研究環境の整備と適切な運営・管理【研実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆研究環境に関する満足度調査であがった課題の改善に努める。</li> </ul>					
3. 学内研究の推進と研究指導者の育成	<p>① 学部学生及び社会人、特に本学卒業生の大学院入学の促進を目的とした情報提供等の広報活動を強化する。（同窓会を利用して大学院の情報を流すなど新たな情報提供の場を設ける。）【大学院】</p> <p>② 大学院兼担教員を可能な範囲で増員し、全学的な研究指導体制を強化する。【大学院】</p> <p>③ 教員の博士学位取得の奨励（本学大学院への本学教員の進学が可能になった場合）【大学院】</p>					

<p>4. 研究活動推進のための外部資金の獲得</p>	<p>①科研費等の競争的外部資金を獲得するための具体的方策の取り組み【研実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆科学研究費などの外部資金の獲得増大を図るため、採択経験豊富な教員による計画書の作成方法等に関する研修会を実施する。</li> <li>◆国内の研究振興財団や民間企業等からの研究費助成の公募案内を全教員にメール等で周知し、研究費助成金を獲得する体制を整える。</li> </ul> <p>②ホームページで教員の研究成果や取組事例の紹介【研実、社セ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆教員の研究成果を大学ホームページで随時紹介し、研究活動に関する広報を充実させる。</li> <li>◆科研費助成が採択された教員の氏名と研究課題を大学ホームページに掲載し、本学の研究活動を広く社会に発信する。</li> </ul>
<p>5. 研究倫理の確立と厳正な運用</p>	<p>①研究倫理に関する体制整備【研実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆最新の研究倫理に関する諸規程を随時紹介し、学内の臨床研究倫理審査委員会と連携して研究倫理の理解向上と研究支援体制の整備を図る。</li> </ul> <p>②研究倫理の厳正な運用【研実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆毎年度の「研究倫理に関する研修会」の受講を推奨する。</li> </ul>
<p>6. 産学官連携研究活動の推進</p>	<p>①ホームページで教員の産学官連携研究活動の成果や取組事例の紹介【社セ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆教員の研究成果を大学ホームページで随時紹介し、研究活動に関する広報を充実させる。</li> </ul> <p>②外部の産学官連携活動への参加による学内の研究活動情報の積極的発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆外部機関等による産学官連携活動に積極的に参加し、学内の研究活動情報の発信に努める。【社セ】</li> <li>◆国立研究開発法人・科学技術振興機構が主催するイノベーション・ジャパン等への参加を支援し、学内の研究成果を積極的に発信する。【社セ】</li> <li>◆みえメディカルバレー構想、みえ LIP 等の活動に参加し、学内の研究成果を積極的に発信する。【社セ】</li> <li>◆SUZUKA 産学官交流会の活動に参加し、学内の研究成果等を積極的に発信し、地域企業等との共同研究を推進する。【社セ】</li> <li>◆三重大学との包括的連携協定に基づき、両校間の共同研究を推進する。【社セ】</li> <li>◆鈴鹿工業高等専門学校との学術協定に基づき、医工連携研究会を毎年開催し、両研究機関の共同研究を推進する。【社セ】</li> <li>◆鈴鹿病態薬学研究会を毎年開催し、学外研究者との交流と共同研究を推進する。【社セ】</li> <li>◆学内で実施されている大学院セミナー、薬学セミナー等を支援する。【研実、社セ】</li> <li>◆本学の研究成果等について、企画広報課と連携して社会的メディア（新聞・テレビ・ラジオ等）を活用して情報発信に努める。【研実、社セ】</li> </ul> <p>③特許出願情報の管理【社セ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆特許出願情報の管理について、出願情報を研究振興課に報告する体制を整備する。</li> </ul>

## 第1－2期の活動計画

重点分野7：国際交流の推進						
<p>【基本方針:2】 留学生の確保</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 留学生受入れのための体制づくりのための調査研究</li> <li>2. 留学生の受入れから管理全般を担当する専門部署の設置検討</li> <li>3. 中期計画1、2を踏まえた事業の実施</li> <li>4. 学科単位での学生の海外体験の機会の拡充</li> </ol>						
<p>責任者:高木久代(国際戦略担当副学長)</p> <p>分担者:小山尚樹(入学課長)、長谷川誠仁(大学院課長)、真弓昭(研究振興課長)</p> <p>事務局:入学課、大学院課、研究振興課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画1.	—		→			
中期計画2.		—	→			
中期計画3.						→
中期計画4.	—					→
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 留学生受入れのための体制づくりのための調査研究	<p>①他大学における受入れ体制を調査</p> <p>◆本学と学科構成が似ている医療系大学を対象に、受入れ体制の実態を調査している。それをもとに本学に当てはめて検討し、受け入れマニュアルを作成する。</p>					
2. 留学生の受入れから管理全般を担当する専門部署の設置検討	<p>①留学生の受入れから管理まで一元的に行う部署の設置を準備している。</p> <p>◆現在の事務局はすべて兼務で行っているため、専任で国際交流業務を担う部署の設置を準備している。</p> <p>◆専門部署において危機管理マニュアルの策定等、運営体制を整備している。</p>					
3. 中期計画1、2を踏まえた事業の実施	<p>①中期計画1及び2を踏まえ、専門部署において事業を展開していく。</p>					
4. 学科単位での学生の海外体験の機会の拡充	<p>①既に学生の海外研修を実施している鍼灸サイエンス学科、医療健康データサイエンス学科、看護学科の3学科について活動を継続しさらに活発化する。</p> <p>◆コロナ禍による交流の断絶を避け、上記の学科に加え、本大学の全ての学科は、教員、学生達が海外の大学の教員、学生達とオンラインを使用して状況を確認し合う。国際交流の第一歩とする</p> <p>②学生の国際交流が未実施である学科への支援</p> <p>◆教員レベルで繋がりのある大学等を一つの切り口として、委員会で検討し、教員個人の関係から前進し大学間での提携を結ぶようする。</p>					

## 第1 - 2期の活動計画

重点分野8：信頼性の高い事業継続可能な組織体制の改革						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:4】 教職員の資質向上</p> <p>【基本方針:7】 大地震など災害への備え</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実効性のある中期的な計画の策定・実行・評価（PDCA サイクル）による大学価値向上と確実に推進するため、教員と事務職員等が、教職協働体制のレベルアップを図る。</li> <li>2. 危機発生時における体制の整備と、BCPを含めた各種マニュアルの更新を行う。</li> <li>3. 教職員に対し、ハラスメント防止対策などの社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させる研修会等を行うことで、組織の体制整備のレベルアップを図る。</li> </ol>						
<p>責任者: 豊田長康（学長） 分担者: 鈴木秀幸（法人事務局長）、村田尚久（大学事務局長）、勝田能成（学生課長）、防災危機管理対策委員会、矢田智樹（人事・厚生課長） 事務局: 学生課、人事・厚生課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	—					▶
中期計画 2.	—					▶
中期計画 3.	—					▶
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 実効性のある中期的な計画の策定・実行・評価（PDCA サイクル）による大学価値向上と確実に推進するため、教員と事務職員等が、教職協働体制のレベルアップを図る	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 数値データをもとに議論する文化の醸成とどうすればできるかを考えるクリエイティブな考え方を身に着ける仕組みを構築し、研修する。</li> <li>② DX（デジタルトランスフォーメーション）推進に向けて、事務局全課において対象業務の選定及び試行する。</li> <li>③ 仮説を立てて実証・検証するという思考法を事務職員が理解し、身に着ける仕組みを構築し、研修する。</li> <li>④ 教員のエフォート率を概ね「教育（専門担当科目、学科共同教育）50%」「研究（専門分野研究、教育研究）25%」「全学組織活動（初年次教育、多職種連携教育、委員会、入学募集活動、社会貢献活動、公共機関等との共同研究など）25%」とバランスを整えていく。</li> </ol>					
2. 危機発生時における体制の整備と、BCPを含めた各種マニュアルの更新を行う	<p>防災・危機対策管理委員会を中心に、危機発生時における対応の他、リスク管理（予防）においても、発生しうるあらゆるリスクを事前に整理し、危機管理対策本部の体制（危機レベルに応じた構成員、指揮・命令系統）や、事業継続も含めたマニュアルの作成及び、随時更新を行う。</p>					

<p>3. 教職員に対し、ハラスメント防止対策などの社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させる研修会等を行うことで、組織の体制整備のレベルアップを図る</p>	<p>ハラスメントに対する理解を深めるための研修会やその他コンプライアンス研修会を年次計画により実施し、教職員の参加率 100%を目標に、社会的責任や法令遵守に対する組織全体のレベルアップを図る。(年1回)</p>
--	---

## 第1－2期の活動計画

重点分野9：財務基盤の充実						
<p><b>【基本方針:全体】</b>            経営体制の充実・強化、財務基盤の充実、補助金等の外部資金の獲得</p> <p><b>【中期計画】2021年度-2026年度</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学納金収入の増加のための取り組みの実行と検証</li> <li>2. 教育設備・研究設備等に関する補助金収入の増加のための取り組みの実行と検証</li> <li>3. 研究に関する補助金や大学のシーズを活用した外部資金の獲得のための取り組みの実行と検証</li> <li>4. 経費削減に関する取り組みの実行と検証</li> </ol>						
責任者:鈴木秀幸(法人事務局長) 分担者:辻井悦生(管財課長)、岩田善光(経理課長)、真弓 昭(研究振興課長)、 経費削減推進委員会 事務局:経理課						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	—					▶
中期計画 2.	—					▶
中期計画 3.	—					▶
中期計画 4.	—					▶
中期計画 5.	—					▶
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学納金収入の増加のための取り組みの実行と検証	重点分野1：大学拡充計画の推進や重点分野2：大学広報の強化と入学者受け入れの改善の計画の進捗により、学納金収入の増加を検討していく。(前年比2.0%増を目標)					
2. 教育設備・研究設備等に関する補助金収入の増加のための取り組みの実行と検証	①学科ごとの教育設備における中長期計画内容の共有化 ◆学科予算打ち合わせ時における各学科からの「今後6年間における学科内教育設備整備計画」により共有化(2023年2月) ②各学科の中期計画に則った教育設備に対する補助金やICTなどの施設設備に対する補助金の募集状況に応じた申請を行う ◆上記「学科内教育設備整備計画」に基づき申請 ・ICT活用推進(LAN設備整備費) 補助金申請(2022.4) ・研究設備(マイクロイメージング) 補助金申請(2022.6) ・教育装置(乳房X線撮影装置) 補助金申請(2022.6) ・教育基盤(硬性内視鏡システム) 補助金申請予定(2022.9)					
3. 研究に関する補助金や大学のシーズを活用した外部資金の獲得のための取り組みの実行と検証	①教員の研究活動に資するための財務基盤として、大学の研究シーズを活用した研究に関する補助金、受託・共同研究費、寄附金の獲得 ◆教員の研究成果や取組事例を紹介等ホームページの充実を図る。 ◆イノベーション・ジャパン等の産学連携イベントに参加し					

	<p>、学内の研究成果を積極的に発信する。</p> <p>◆学内の研究成果等について、企画広報課と連携して社会的メディア（新聞・テレビ・ラジオ等）を活用した情報発信に努める。</p>
<p>4. 経費削減に関する取り組みの実行と検証</p>	<p>①経費削減推進委員会の活動対象を、従来の省エネルギーに関する活動以外に、事務局のコピー機利用削減（ペーパーレス化）を目標とした活動を加える（全体枚数、カラーコピー枚数前年比5%削減を目標）。</p> <p>②施設関係（千代崎・白子キャンパス）</p> <p>2022年度は電気使用量53,000kw/年削減 省エネ行動の徹底及び照明LED化、高効率空調機への更改 ※53,000kw/年は原油換算（特定事業者）1%削減による 2023年度以降は前年度使用量1%削減を数値化とする。</p> <p>◆省エネルギー意識向上のための講演会の開催（年1回） ◆サムスエコ通信の発信（年6回） ◆新たな経費削減メニューの提案（2022年10月）</p> <p>③経費削減意識の向上を目的とした活動の継続的実行</p> <p>◆未使用講義室の消灯及び空調停止確認による電気使用量削減（毎日、チェック表による確認） ◆電気使用量実績共有による節電意識の向上（毎月、使用実績の共有） ◆千代崎キャンパスへの太陽光導入に向けた検討（場所、容量他）</p>

## 第1－2期の活動計画

重点分野 10：4つのポリシーの実質化						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <p>1.4つのポリシーの運用に関するPDCAサイクルの仕組みを実行する。                  2.ディプロマポリシーの達成度をチェックし、向上させる仕組みを実行する。                  3.各学科のアセスメントポリシーに基づいて、自己評価委員会を通して点検・評価し改善する。</p>						
<p>責任者：豊田長康（学長）                  分担者：教育改革委員会、教育質保証委員会                  事務局：教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 4つのポリシーの運用に関するPDCAサイクルの仕組みを実行する	①教育目標を踏まえたディプロマポリシーを学生に周知する。 ②カリキュラムマップを基に、ディプロマポリシーとの一貫性を学生に周知する。 ③4つのポリシーと教育課程との整合性を教育質保証委員会が点検し、教育改革委員会へ状況を報告する。					
2. ディプロマポリシーの達成度をチェックし、改善点を検討する。	①卒業生予定者に、学修成果に関する達成度を測定するアンケートを実施し、蓄積している調査結果と併せて分析し、改善点等について、教育質保証委員会で検討する。 ②教育方針の改善点等について、年度末に教育質保証委員会は、教育改革委員会へ報告する。					
3. アセスメントポリシーについて、教育質保証委員会を通して確認する。	①学生のPDCAを促し、教育効果の有用性を確認するために、教務システムSUMS-POの学修カルテ機能を活用し、学生自らの学修行動を振り返り、担任教員によるコメントも含め、学生の主体的な学習を促すために仕組みを構築する。 ②反転授業の推進、オンライン環境下での試験実施方法の開発など新たな学修評価の在り方を開発する。					

## 第1 - 2期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（放射線技術科学科）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者:放射線技術科学科長            分担者:大井一弥(国家試験対策WG副委員長)、村田尚久(大学事務局長)、宮崎和裕(就職・キャリア支援課長)、松永ひとみ(教務課長)            事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.						→
中期計画 5.						
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育環境の充実               <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学生教育用に準備された最新医療機器を使い、臨床現場に則した学内実習を実施し教育内容を充実化する。そのために、計画的な機器の更新・管理運用を行う。令和4年度には、MMG装置の更新を目指す。</li> <li>② 学生の自己学修時間や場所の確保等について環境整備をする。</li> </ol> </li> <li>2. 質の高い臨床実習を実現するため、改善点として以下を計画する。               <ol style="list-style-type: none"> <li>① オンラインミーティングシステム(ZOOM)を活用し、全臨床実習指導施設(約70施設)を対象とした臨床実習報告会および次年度臨床実習説明会を開催する。実施時期は10月および2月頃を予定する。</li> <li>② 3年次5月に臨床実習希望施設調査を行うとともに教員との協議面談等を経て臨床実習指導施設を仮決定する</li> <li>③ コロナ禍を踏まえ、3年学内実習においてはオンラインと対面のハイブリッド方式を導入するとともに、年度末までに学内教員により対面での実技試験を導入する。</li> </ol> </li> </ol>					

	<p>④ 臨床実習中、毎日の適度な目標設定とポジティブフィードバックおよびリフレクションを促す独自の「臨床実習ノート（ポートフォリオ）」を作成し、効果的な経験学習を促進する。</p> <p>3. 教授方法のさらなる改善</p> <p>① 学修サポートシステムの教員活用を進める。特に今年度は、learning Box 等のイーラーニングを用いた予習復習支援教材を導入する。2021年度は専門科目の80%以上で導入することを目指す。</p> <p>② すべての演習・実習科目においてルーブリックを評価尺度として用い、総合評価に反映させる。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1. 1年次の早期に臨床等で専門の資格を持って活躍、あるいは社会人大学院生として活躍する診療放射線技師と接する機会をつくり、将来のキャリアデザインを描く手がかりとする。医療人底力実践基礎 I 学科プログラムにて企画する。</p> <p>2. 初期教育の一環として専門職にふさわしい態度等を学ぶ機会をつくる。マナー・ノンテクニカルスキル教育を2-3年生対象に実施する。特に、学内実験実習においては、必ず取り組む。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1. 目標値 受験者あたりの合格率 90% HR19年入学生あたりの合格率 80%</p> <p>2. 指導内容 教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。</p> <p>① 1年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施する。</p> <p>② 1年生、2年生は、学年進級時の模擬試験を実施、3年生は年2回の模擬試験実施、4年生は年6回の模擬試験を実施する。</p> <p>③ 4年次模試の結果から、後期以降、成績不振者を月1回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問またはイーラーニングによりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。</p> <p>④ 担任教員による学修状況の確認と学修指導を行う。1-3年生は年3回以上、4年生は月一度以上の面談を実施する。</p> <p>⑤ 4年後期、週一日、国試対策講義を開講する。</p> <p>⑥ 模擬試験後の担任個人面談を実施し、生活状況の改善や国家試験学習支援（個人指導）を行う。</p> <p>⑦ 模擬試験成績不振者の保護者へ成績通知を行う。</p> <p>⑧ 10月以降模擬試験や9月以降国家試験対策講義（放射線科学特論）では、座席を模擬試験成績順（成績下位者から順に前方）に指定席を設定する。</p>

	<p>⑨ 国家試験直前の12月下旬から2月上旬にかけ、補習を実施する。</p> <p>⑩ 各教員が国家試験の専門分野に精通し、国試全体も把握するため、毎回の模擬試験作成時に出題基準を明示する。</p>
4 市民公開講座の計画・実施	<p>・診療放射線技師の職務内容を広く多くの方に伝えるために市民公開講座を開催する。</p>

## 第1 - 2期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（管理栄養学専攻）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者: 医療栄養学科長                      分担者: 管理栄養学専攻長、大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、                      宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長）                      事務局: 教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.						→
中期計画 5.						
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>実習試験の導入と拡大</b>                              実習の効果をより可視化し適正な評価を行うために、実習の評価法としてレポートによるだけでなく、実習試験を実施するようにしてきた。この方向性を継続拡大し、学生の自主的学習態度の一層の涵養に務める。</li> <li>2. <b>IR分析結果を活用した教育改善</b>                              IR室との連携をもって、学生の教育および生活の問題点を解析し、早期の解決を図るための検討資料とする。</li> <li>3. <b>教育の保証委員会</b>                              “教育の質保証委員会”を設置して教員がシラバスに沿った教育を進めていることを評価確認し、必要に応じて助言する体制確立をめざす。</li> </ol>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>キャリアプランニング授業の構築</b>                              学生の将来のキャリアプランニング充実を目的として、卒業生を含む学内外の人を招き、モチベーション向上につながるような授業形式の懇話会／セミナーを計画する。</li> <li>2. <b>早期導入教育の充実</b>                              1年生底力教育を利用して、管理栄養学専攻の立案に基づ</li> </ol>					

	<p>いて病院や福祉施設での管理栄養士の仕事を見学する機会を設け、早期の段階から学生の向学心高揚を目指す。</p> <p><b>3. リメディアル教育の実効性向上</b>  受験者数減少が進み、入学者の学力レベル低下が懸念されるためリメディアル教育の充実が喫緊の課題である。対象となる学生にリメディアル教育への参加を促し、成果としての学修到達度を担任教員が把握してモチベーション向上をはかるように指導する。</p> <p><b>4. 成績不振者に対するトコトン教育の充実</b>  1～3年の後期終了時に成績不振者に対し、2者ないし3者面談行を行い、IR推進室の分析結果や学習ポートフォリオ等を活用し、振り返りによる自己認識を行わせ、目的意識・学習意欲を高めさせると共に、Learning Boxなどの学修支援システムを活用した学習方法などの指導・支援を行う。</p> <p><b>5. 国家試験対策学習支援の充実</b>  国家試験対策の柱となる模擬試験の結果を常時モニターし、模擬試験では終了後直ちに振り返り学習の時間をとることにより、学生が自ら集中すべき学習項目の確認できるようにする。また、成績不振者には集中して補講や個別指導、及び保護者を交えた面談などを行い、従来から進めてきた学生個々へのきめ細かな指導を継続する。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p><b>1. 国家試験の現役受験者の合格率と入学者当たりの合格率向上</b>  新卒者の管理栄養士国家試験合格率の目標は100%とする。また、進路変更や病気休学の学生を除いて、入学者の標準年限内の合格率は90%を目標とする。</p> <p><b>2. 国家試験対策</b>  カリキュラムとして4年生前期の総合演習II、及び医療栄養学特別演習で国家試験対策の指導を行う。</p> <p><b>3. 3年生以下の学生対象の国家試験対策</b>  3年生に対しても国家試験問題に接する機会が持てるようにして、学習の意義を具体的に意識させる。また、3年生の模擬試験受験を積極的に指導する。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p><b>1. 市民公開講座の実施</b>  両専攻教員による公開講座を開催し、市民に本学科の研究、教育を紹介するとともに、この地域の健康、福祉の向上に貢献する。</p>

## 第1 - 2期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（臨床検査学専攻）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者: 医療栄養学科長/臨床検査学専攻長            分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松永ひとみ (教務課長)            事務局: 教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.						→
中期計画 5.						
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p><b>1. アチーブメントテスト(学習達成度確認試験)の充実</b>            アチーブメントテストを共用試験に位置づけて1~3年次に実施し、各テストで一定以上の得点を取ることを臨地実習履修条件に加える仕組みを検討する。</p> <p><b>2. OSCE(臨地実習前の技能修得到達度評価)の充実</b>            OSCE確立に向け臨床検査技師養成所指導ガイドラインに基づき、現在の評価内容や評価方法を改善する。</p> <p><b>3. IR分析結果を活用した教育改善と成績不振学生の早期抽出法の確立</b>            教育の質保証委員会のIR委員及びLMS委員を中心にIRデータを解析し、その結果を基に教育内容・方法を改善する。また、成績不振学生とその予備軍を早期に抽出できる仕組みの確立に向けた検討を行う。</p> <p><b>4. 検査説明のための技能の育成</b>            今後、臨床検査技師に求められる検査説明を行う為の技能の育成に関して、主に以下の二点からアプローチする。            ① 臨床検査医学演習(R-CPCを含む)の充実: 授業評価と試験を基にさらなる充実を図る。</p>					

	<p><b>5. 新規臨床検査学教育コアカリキュラムの実施と検証</b> 2022年4月の入学生から適用されるコアカリキュラムについて、各科目の実施状況を評価し改善する。</p> <p><b>6. 教育の質保証委員会</b> 教育質保証委員会内規に基づき、当専攻における「トコトンできるまで教育(SUMS方式学修支援メソッド)」の確立・実施に向け教育に関連する課題について議論し、改革・改善を図る。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p><b>1. 成績不振者に対するトコトン教育の充実</b> 1～3年の後期終了時に、成績不振者に対し2者ないし3者面談を行う。その際、IR推進室の分析結果や学習ポートフォリオなどを活用し、振り返りによる自己認識を行わせ、目的意識・学習意欲を高める。また、learning Boxなどの学修支援システムを活用した学習方法について指導・支援を行う。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p><b>1. 国家試験の現役受験者の合格率と入学者あたりの合格率向上</b></p> <p>① 臨床検査技師国家試験の現役受験者の合格率目標値を100%に、入学者(進路変更を除く)あたりの合格率目標値を90%に設定し、以下2.3.の取り組みを行う。</p> <p>② 成績不振の学生に対しては、補講や面談といった人手による手厚いケアを行い、モチベーションを含めて成績の向上を図る。</p> <p><b>2. 全教科に共通する効果的な教育方法の構築</b> 定期試験や模試結果の詳細な分析結果に基づき、全教科に共通する効果的な教育方法を構築する。</p> <p><b>3. eラーニングシステムの構築</b> 記憶した知識のアウトプットが定着するまで、トコトンを繰り返すためのツールとしてeラーニングシステムの構築を進める。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p><b>1. 鈴鹿市健康フェアへの参加</b> 市民を対象に年1度、鈴鹿医療科学大学白子キャンパスで医師会、薬剤師会、看護協会等で開催する。臨床検査学専攻も超音波検査を実施する。</p> <p><b>2. 検査と健康展への参加</b> 市民を対象に年1回、健康展を三重県臨床検査技師会主催で行う。市民を対象とした市民公開講座が開催される。</p>

## 第1－2期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（理学療法学専攻）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者：リハビリテーション学科長            分担者：大井一弥（国家試験対策WG副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長）            事務局：教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.						▶
中期計画 2.						▶
中期計画 3.						▶
中期計画 4.						▶
中期計画 5.						
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	2024年国家試験出題基準改定に合わせたカリキュラム改定、講義内容の増加、担当者変更を行い、2023年度より実施する。特に難易度の高い内容、実技実習を必要とする内容を優先する。					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	1年次、本学の特色であるロボットリハビリテーションの現場見学を通じ、学生の動機づけを図る。少人数のグループ毎に、本学敷地内の鈴鹿ロボケアセンターで実施する。 1年次、底力教育の中に、障害者、家族の談話に傾聴する時間を設ける。					
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	本学学生の国家試験の解答内容から正解率の低い分野、科目を抽出し、科目担当者による講義内容の強化、成績不良者への補講を実施する。目標は新卒合格者 100%、入学者あたりの合格率 75%。					
4. 市民公開講座の計画・実施	新型コロナウイルス感染拡大状況に応じ、対面での市民公開講座を計画。内容により年度内、あるいは次年度実施を調整。					

## 第 1 - 2 期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（作業療法学専攻）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者: リハビリテーション学科長            分担者: 作業療法学専攻長、大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、            宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長）            事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.						→
中期計画 5.						
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>1 年生では VR 教材を利用し臨床実習の初期の段階の準備を行う。4 年生の総合臨床実習が初めて行われる。実習配置から実習訪問など円滑に行うように計画を立てる。また、臨床実習の支援システムの本格運用を 2022 年度から実施し、学校と臨床現場との密な交流に役立てる。このことで臨床実習での問題を出来るだけ早期に解決できるように援助する。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>学習支援: 講義・実習において小テスト等を利用すること、試験問題では国家試験に関する問題を 3 分の 1 出題することにより国家試験に慣れるように支援する。ラーニングボックスを利用して自主的な勉強に取り組めるように指導する            向学心の高揚: 現場の臨床で働いている先生や作業に精通している芸術家、障がい者を有した者を特別講師として授業で講義していただき、学生の作業療法士としての向学心の高揚への取り組みを行なう。</p>					
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>合格率は 100% を目指し、最低でも全国平均を上回る合格率を確保したい。そのため、1 年から 3 年次にかけては 3 科目（生理学、解剖学、運動学）の模試を行い、学習効果の確認と学習の度合いを学生自身に周知させ、この模試での成績不良者においてはラーニングボックスを用いた振り返り、国家試験学習ノートの作成を課す。また、4 年次の「総合演習」では、外部から講師招い</p>					

	て国家試験の学習戦略を習得させ、業者模擬および学内試験を実施して指導する。
4. 市民公開講座の計画・実施	市民公開講座はコロナ禍のため開催はしない。ただ、鈴鹿市学官連携の講習会の開催を進める。

## 第1 - 2期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（医療福祉学専攻）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者:医療福祉学科長            分担者:大井一弥(国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久(大学事務局長)、宮崎和裕(就職・キャリア支援課長)、松永ひとみ(教務課長)            事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.						→
中期計画 5.						
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	一人ひとりの教員が「とことんできるまで教育」のねらいをよく理解し、保護者の期待である、留年も休学もすることなく4年間で国家試験に合格し卒業するという観点を尊重し、どの種の授業であれ常に国家試験を意識した内容を展開することで期待に応えていく。					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	国家試験合格を中心命題に据え、より効果的な学習支援の方策として、学生の意見や要望を幅広く把握し分析するとともに、一人ひとりの理解度や到達度に応じた対応を心がける。また、主体性をもって学習に取り組む姿勢(やらされている学修から自らの意志で学習する気概)作りを1年時から指導していく。					
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	教育目標、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、一人ひとりの習熟度に沿いつつ、ラーニングボックス等の積極的な利用、学内外の模擬試験の実施を通して、社会福祉士、精神保健福祉士ともに合格率75%を目標とする。					
4. 市民公開講座の計画・実施	国際交流の意味からも外国人を招聘しての福祉に関する公開講座を年度末に計画している。					

## 第 1 - 2 期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（臨床心理学専攻）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者: 医療福祉学科長            分担者: 臨床心理学専攻長、大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、            宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長）            事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.						→
中期計画 5.						
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	①専攻学生全員が外部実習に参加できるよう、また全員が学部における公認心理師受験資格を得られるよう目指す。 ②講義内で小テスト、またはグループワークの場をこれまでより多くすることで、学力および社会性を高める。 ③個々の学生に応じた到達目標を立て、学生の力を伸ばすような方法を吟味する。					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	①1 年次における「臨床心理学の基礎」「医療人底力実践 I（学科プログラム）」で、大学での学び方について支援を行う。 ②現場の職員や特別講師を招聘し、実践学修への意欲を一層高めることを目指す。					
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	①公認心理師資格試験（2021 年度）の全国合格率が 58.6%であったので、本学修了生は 70%を目指す。 ②基礎的知識を高めることができる学びの機会を、指導教員を中心に提供する。 ③模擬試験を受験するよう促す。					

4. 市民公開講座の計画・実施	COVID-19 の感染拡大が継続する恐れがあるため、今年度についても自粛する。
-----------------	--

## 第1 - 2期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（鍼灸サイエンス学科）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者:鍼灸サイエンス学科長            分担者:大井一弥(国家試験対策WG副委員長)、村田尚久(大学事務局長)、宮崎和裕(就職・キャリア支援課長)、松永ひとみ(教務課長)            事務局:教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.						→
中期計画 5.						
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習・実技教育の向上のための取り組み                デジタル教材を活用して、収録した動画による学習、到達目標を確認するアクティブラーニング形式等を実施し、深い学習・技術の習得の向上をはかる。                2021年度、デジタルホワイトボードおよび備品が設置された。今年度は、放送設備（音響機器）の入れ替えを行い、実技実習教育の活用を始める。</li> <li>2 キャリア教育の充実                昨年度までに専門教育「鍼灸への誘い」による鍼灸師の職業観や将来像涵養を目標とした教育はほぼ完成した。下記、教育講演開催とキャリアプランの指導を強化する。                ① キャリア教育講演を年1回開催する。                ② キャリアプランを作成させ、個人面談での助言・指導に活かす。(2～4年生)。</li> <li>3 病院・クリニックへの就職支援                昨年度の病院・クリニックの鍼灸治療の融合と協力の実態調査に基づき、継続して卒業生の病院・クリニックへの就職支援に取り組む。適応可能な希望者を病院・クリニックへ就職させる。</li> <li>4 鍼灸スポーツトレーナー学専攻のフィールドワーク実施</li> </ol>					

	<p>スポーツトレーナー学および資格試験の知識と技術をアウトプットするフィールドワークを実施する。昨年度は、コロナ禍の影響で活動は中止された。今年度は、特別講義を含めた内容で調整中である。</p>
<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>1 学習目標：進級率 90%以上</p> <p>2 学習支援内容        学生との関わりとコミュニケーションを重視して下記内容を実施。</p> <p>① 出席および体調管理のチェックと指導        ② 課題提出状況の把握と指導        ③ 個人面談        ④ 定期試験前後のフォロー        ⑤ learning Box の活用</p> <p>3 意欲向上・交流促進のためのプログラムを計画        通年で開催してきた球技大会、取穴大会を含め、ワクチン接種後、感染状況が落ち着いた頃を見計らって実施を検討。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1 受験者あたりの合格率：100%、</p> <p>2 入学者あたりの合格率        2022 年度 75%を目標とする。</p> <p>3 指導内容        教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。</p> <p>① 1 年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施。        ② 対策授業の指導を強化し、要点文集を段階的に暗記させ、全て暗記するまで確認試験を繰り返す。        ③ 成績不振者を月 1 回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問によりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。        ④ learning Box の活用して隙間時間を利用した学習を促進。        ⑤ モチベーション維持・向上のために、定期試験後や補習終了後に個別面談を行い、学生との関わりとコミュニケーションを重視して国家試験まで一緒に取り組む。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>ワクチン接種後、感染状況が落ち着いた頃を見計らって実施を検討。</p>

## 第1－2期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（救急救命学科）						
<p>【基本方針：1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針：5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者：救急救命学科長            分担者：大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長）            事務局：教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.						▶
中期計画 2.						▶
中期計画 3.						▶
中期計画 4.						▶
中期計画 5.						
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>①カリキュラムマップを有効活用し、学生自身の学修の促進を行う。            ◆成績不審者の早期発見につとめ担任による学修指導時にカリキュラムマップを確認しながら学生自身の学びのプロセスの可視化を行いきめ細かな指導を行う。</p> <p>②授業評価アンケートの活用            ◆学生からの授業アンケートの回収率を高めると共に、その結果について詳細な分析を行い授業内容の改善を図り、教育の質向上につなげる。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>①入学前教育（推薦入学予定者で希望する者）とリメディアル教育の充実を図り、入学生の学習能力の向上につなげる。            ◆「すべての科目の成績は国語で決まる」といってもよく、救急医療に関連するテキストや授業でよく見る漢字、覚えておきたい基本の漢字・用語のドリル教材を活用して国語力の向上を図る。</p> <p>②授業の出席状況および健康管理を行う。            ◆担当教員が学生に対して学修指導が必要と判断した場合、個人面談を早期に行い状況の改善を図ると共に学習支援を行う。</p>					

<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>①1年次から国家試験を意識させた授業を行う。  ◆医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)において国家試験の概要について学修する機会を設ける。  ◆過去に出題された国家試験問題をできるだけ多く触れることで学力が向上することから、当該科目の範囲に該当する出題分野の問題に取り組むことや、授業開始前にポストテスト等を行う。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>鈴鹿市消防本部・鈴鹿市消防団と連携して『2022年救急・健康フェア』を9月11日で行うことで、市民に本学科の研究、教育内容を紹介すると共に三重県の災害・救急医療のさらなる充実と地域防災力の向上に貢献することを目指す。</p>

## 第1 - 2期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（臨床工学科）						
<p>【基本方針:1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針:5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】2021年度-2026年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者: 臨床工学科長            分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松永ひとみ (教務課長)            事務局: 教務課</p>						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.						→
中期計画 5.						
2022年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<ol style="list-style-type: none"> <li>①大学入学時に Early Exposure (病院見学、医療機器操作体験) を行い、初年次教育の充実を図る。</li> <li>②臨床工学技士の業務拡大を見据えた新カリキュラムについて学科内でカリキュラム検討委員を選出し、検討を行う。</li> <li>③4年前期・後期に開講される特別演習科目を学科全教員で担当し、国家試験対策を充実させる。</li> <li>④実習科目の実技試験は、ルーブリックを用いて評価を行い、実習科目の総合評価に反映させる。</li> <li>⑤学修サポートシステムの教員活用を進める。</li> </ol>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<ol style="list-style-type: none"> <li>①GPA に基づいた学習指導計画を図ると共に、GPA 上位の学生を対象に早期の進路活動を促す。</li> <li>②欠席の多い学生に対して、担任から早期に連絡を取り、状況を把握する。</li> <li>③大学祭における学科発表の支援強化を行う。</li> </ol>					

	④学生へのボランティア活動情報を提供し、自治体が行うイベントへ参加・協力(展示等)を促す。
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>①新卒学生の100%合格を目指し、入学者あたりの合格率は90%(48名/53名)を目指す。</p> <p>②GPA及び模擬試験によるクラス編成を行い、成績不振の学生を対象に前期から自習の義務付けと対策講義への出席を促す。</p> <p>③各クラスの習熟度に対応した国試対策や学修サポートを行う。</p> <p>④頻出問題と必要最低限な基本問題の演習を繰り返し行う。</p> <p>⑤各教員が国家試験の専門分野に精通し、国家試験全体も把握している。</p> <p>⑥国家試験サポートソフトウェアの教員活用を進める。</p> <p>⑦早期から国家試験への意識を高めるために、3年次から全国統一模擬試験の受験を促す。</p>
4. 市民公開講座の計画・実施	①新型コロナウイルス感染症のため未定であるが、開催が可能な場合は、医学・工学・生体医工学・臨床工学等に関する市民公開講座を行う。

## 第 1 - 2 期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（医療健康データサイエンス学科/医用情報工学科）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者：医療健康データサイエンス学科長/医用情報工学科長            分担者：大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長）            事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	—					→
中期計画 2.	—					→
中期計画 3.	—					→
中期計画 4.		—				→
中期計画 5.						
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>①教育内容の充実では、新学科のカリキュラムではデータサイエンスの基礎となるプログラミング能力を身につけさせるため、多数の授業科目でコンピュータ演習または実習を行いながら教育することになる。そこで、今年度はコンピュータ実習を含んだ授業科目を 15 科目以上に増やすための準備を行う。</p> <p>②教育方法・教授方法の改善としては、SUMS-PO、learning Box などのオンライン教材を利用するための教材作成を行い、5 科目以上でオンライン教材の作成を実施し、教育効果の高いオンライン教材の作成に関する意見交換を実施する。</p>					
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>①効果的な学習支援としては、授業の出席状況とレポートの提出状況を把握し、授業の理解状況を SUMS-PO、learning Box などの学習支援システムを使用し、学期の途中に理解度を把握する。そして、成績不振者に対しては、個別学習支援を行い、トコト教育を実施する</p>					
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>①本学科の学生の就職先は幅広い IT 分野またはデータサイエンスの利用分野であり、情報処理の基礎を身につけていることが必要である。そこで、情報処理技術者試験の「IT パスポート」（国家試験）を 2 年生の後期までに数年後には入学者あたりの合格率 80%（令和 2 年度の全国での平均合格率 50.8%）を目指す。</p>					

4. 市民公開講座の計画・実施	①三重県教育委員会が主催する「まな便（まなびの宅配便）」に、本学科の学生が中学生や高校生を中心に教えるコンピュータ講習会（EXCEL を使用して種々のグラフを作成など）に登録する。
-----------------	--

## 第 1 - 2 期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（薬学科）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者：薬学科長            分担者：大井一弥（国家試験対策 WG 副委員長）、村田尚久（大学事務局長）、宮崎和裕（就職・キャリア支援課長）、松永ひとみ（教務課長）            事務局：教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						▶
中期計画 2.						▶
中期計画 3.						▶
中期計画 4.						▶
中期計画 5.						
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 学生および保護者の一義的な期待は、留年／休学せずに薬剤師国家試験にストレートで合格することである。授業において国家試験を意識した内容も補足するように教員に求める。</li> <li>② 低学年（特に 1 年生）では、学修に必要な情報処理能力（履修登録、遠隔授業出席、課題提出、SUMSPO や e—ラーニングなどの使用について）を身につけているかについて、学生個々の状況を担任が確認（出席、課題提出などで判別）し、情報処理の問題による学修の遅れを出来る限り早期に対応していく。</li> <li>③ 低学年（特に 1 年生）で、学修環境の整備（学修習慣を身に付ける、学修技能の習得、予習復習のための e—ラーニング等の整備）し、学修成果の確認を定期的実施する。</li> <li>④ 大学教育の中で、医療現場だけでなく社会ニーズに対応できる薬剤師を養成することを目指す。各教員は薬剤師業務に必要な幅広い知識・態度・技能を身につけるための教育を学生に提供するように促す。</li> </ol>					

<p>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</p>	<p>① 教育ツールの提供のほか、学生が質問しやすい現場環境作りに取り組む。特に低学年層には、教育ツールを取扱う知識や質問メールの作法などの導入教育（薬学教育だけではなく常識モラルの教育）を実施していく。そのためには、教育専門部門である薬学教育センターを有効活用していく。</p> <p>② 高学年では、成績下位層に対して各教員が幅広く学修支援を行い、学力を向上させている。中上位層には、向学心の醸成とモチベーション維持のため各教員が教育指導を実施しており、自学自習のためのコンテンツ提供も行っている。</p>
<p>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p>	<p>1, 2に基づき、学修のためのコンテンツ（学修ツール、授業フォローコンテンツなど）を提供し、知識の定着を図る。特に低学年にはそれらのコンテンツを正しく利用できるよう指導しつつ学修環境を整備し、低学年での学力の底上げを行う。</p> <p>① 4年次 CBT の合格率および各学生の得点を薬剤師国家試験の合否指標の1つとして、本学卒業の受験生の100%合格率、70%以上の得点率となるような教育体制を構築していく。</p> <p>② 薬剤師国家試験の目標は、ストレート合格率の向上とし、薬学部新設大学で上位に入る65%を当面の到達点とする。</p>
<p>4. 市民公開講座の計画・実施</p>	<p>一般市民向けの公開講座を毎年、継続的に実施し、大学の魅力を広く発信し続ける。薬学科広報の一環として、企画広報課および入学課との連携を強化する。</p>

## 第 1 - 2 期の活動計画

重点分野 11：各学科教育の特色（看護学科）						
<p>【基本方針: 1】 面倒見の良い、魅力ある大学</p> <p>【基本方針: 5】 医療・福祉の総合大学化の完成と改組</p> <p>【中期計画】 2021 年度-2026 年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> <li>4. 市民公開講座の計画・実施</li> </ol>						
<p>責任者: 看護学科長                      分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松永ひとみ (教務課長)                      事務局: 教務課</p>						
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	→					→
中期計画 2.	→					→
中期計画 3.	→					→
中期計画 4.						→
中期計画 5.						
2022 年度活動計画						
対応する中期計画項目	活動計画内容					
1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<p>①カリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラムマップの活用度を向上させ、学生自身による振り返りを支援し、学びの促進への方向づけをする。                      ◆オリエンテーションでの具体的説明と前・後期での担当学生との面談時に確認する。</p> <p>◆これまで何を身につけ、何が課題で、これから何を学んでいくのかを学生が主体的に理解できるようにする。</p> <p>②多様なメディア（learning Box、Google フォーム等）を用いてアクティブラーニングを推進する。                      ◆反転授業を取り入れる。</p> <p>◆学生の理解度を高めるため、各回の授業での小テストやアクションペーパー等を導入し、理解度の確認をする。</p> <p>③授業評価アンケートに対応し、授業内容の改善を推進する。                      ◆アンケート回収率を高める。</p> <p>◆学生のニーズに応える教育内容と教育方法を具体的に実施する。</p>					

	<p>④「教育の質に係る客観的指標」と看護学科の現状の教育内容を精査し、必要とされる内容を組み込む。</p> <p>◆「教育の質に係る客観的指標」の内容を精査し、看護学教育内容との適応状態、不足内容を点検する。</p>
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>①成績不振者、休学者への学修支援計画の継続、評価、改善を行う。</p> <p>◆学科教務委員会、学生委員会、学年担当と担当教員が連携して成績不振者および休学者の学修支援計画を作成する。</p> <p>◆学修支援計画の評価と改善を行う。</p> <p>②入学前教育（推薦入試予定者で希望者）とリメディアル教育を充実させ、入学生の学習能力を向上する。</p> <p>◆現状を評価する。</p>
3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>①看護師国家試験合格率 100%を目指し、入学者あたりの合格率では、90%を目標とする。</p> <p>◆1年次から系統立てた国試対策を実施し、評価する。</p> <p>②保健師国家試験合格率 100%を維持する。</p> <p>◆看護師国家試験と並行しながら、4年次での国試対策を実施し、評価する。</p> <p>③国家試験の合格に向けて、学生、教員、保護者が一丸となって取り組む。</p> <p>◆保護者説明会、3者（保護者・学生・教員）面談を有効活用し、成績不振者の学習支援に保護者の協力を得る。</p>
4. 市民公開講座の計画・実施	<p>①COVID-19 の感染状況を踏まえながら、市民公開講座を再開する。</p> <p>◆感染対策を講じながら、市民公開講座を計画し、実施する。</p>